

平成 20 年度国立大学図書館協会地区協会助成事業報告書（中国・四国地区）

実施地区名

中国・四国地区（主担当大学 広島大学）

事業名

ワークショップ：新しい学術情報利用システムを考える

「大学における研究・教育活動と電子リソース利用の現在」

事業趣旨

現在、大学図書館サービスの現場では、膨大かつ多様な学術情報を効果的に提供するために、従来のデータベース、ホームページや学術ポータル機能に加え、検索エンジンによる情報検索支援も不可欠な状況となっている。また、ERMS など様々なツールを積極的に活用し、リンク機能を生かして有料・無料の電子ジャーナルやデジタルコンテンツをシームレスに提供するなど、利用者が必要とする学術リソースを統合的かつ効果的に提供する必要がある。本ワークショップでは、これら学術情報利用ツールやリソースについて、提供者サイドと利用者サイドの両面からの現状と展望を的確に把握し、情報環境の変化や情報要求の多様化に対応できる次世代 OPAC に必要な機能、また、検索エンジンを使用して大学や地域の学術資源の有効利用なども視野に入れながら、厳しい財政状況下にあって、低コストかつ効果的な学術情報利用システムを構築する契機とした。

事業概要

日 時 平成 21 年 1 月 29 日（木）13:00-17:30

会 場 広島大学中央図書館ライブラリーホール（東広島市鏡山 1-2-2）

主 催 国立大学図書館協会中国四国地区協会

共 催 中国四国地区大学図書館協議会 広島県大学図書館協議会

内容

13:00-13:10 開会 挨拶：田中久男（広島大学図書館長）

【講演】

13:10-13:50 「NII Goes Open! 新 CiNii, 新 KAKEN, 次世代目録」大向一輝（国立情報学研究所）

13:50-14:30 「書籍と学術論文の検索サービス：グーグルブック検索とグーグルスカラー」

佐藤陽一（グーグル株式会社）

14:30-15:10 「NDL デジタルアーカイブポータル(PORTA)の現状と将来」

柴田昌樹（国立国会図書館関西館）

【事例報告】

15:20-15:40 「タクソノミー、キーワード検索、そしてフォークソノミー」

平川正人（島根大学総合理工学部）

15:40-16:00 「社会連携事業における検索エンジンの利用と期待」北條充敏（岡山大学附属図書館）

16:00-16:20 「学術情報マネジメント、ERMS、次世代 OPAC」片岡真（九州大学附属図書館）

【共同討議】

16:20-17:20 コーディネーター 平川 正人（島根大学附属図書館長）

17:20-17:30 閉会

経費

講師交通費	68,020 円
広報（ポスター）	26,250 円
会議費	20,330 円
消耗品費	31,825 円
計	146,425 円

実施状況

参加人数： 71 名 （学外 46 名 学内 25 名）

ウェブサイト：<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/topics/090129ws.html>